



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社ニッポン放送（B）

5

株式会社ニッポン放送（以下、ニッポン放送）の経営権問題は、財界・政界・マスコミを巻き込み、国民の注目を集めていた。

株式会社ソフトバンクインベストメント（以下、SBI）は、同社の北尾吉孝・最高経営責任者が3月28日に、株式会社ライブドア（以下、ライブドア）堀江貴文氏と会談することを明らかにしていた。ライブドアとフジサンケイグループの対立が深まる中、和解に向けた調整を行うことが目的であった株式会社フジテレビジョン（以下、フジテレビ）の村上光一社長は記者会見で、ライブドアとの関係について、「担当役員レベルで話し合いは続けていく」と語っていた。^[1]

10

15

3月28日

堀江氏は会談をSBIの北尾氏を介した和解交渉を、キャンセルした。北尾氏も、3月31日に自社ホームページで「私としては、積極的に仲介の労をとりたくとも考えておりません」と述べた。^[2]

3月30日

20

ライブドアの堀江貴文社長とニッポン放送の亀渕昭信社長が3月29日午後には会談したことが一部報道により明らかになった。両社長による会談はライブドアがニッポン放送株の約35%取得を公表した2月8日以来となった。この会談はライブドア側の要望で実現した。

ライブドアは前週末までにニッポン放送の発行済み株式の過半数を取得しており、同放送などフジサンケイグループ全体との事業提携を進めたい考え。会談では、堀江社長がインターネットと放送の融合による効果などについて提案したものの、亀渕社長は難色を示し、議論は平行線をたどったようだ。ただ、今後も話し合いを続けていく方向だ。

25

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学経営管理研究科准教授 小幡 績によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 小幡 績（2021年12月作成）